

みちのくスキーツアー (月山・鳥海山・南北八甲田山・岩木山)

2008年4月28日(月)夜～5月4日(日)
メンバー：TAK、A・T(記)

4月28日(月)夜～29日(祝)月山スキー場
天気：晴れ

A・T宅出発(20:15) TAKさん宅(21:30)経由、北陸道・小矢部PAにて車中泊(1:00～5:00)。さらに、新潟～磐越道～郡山～東北道～仙台南方～山形道～月山IC(11:25)と「コの字型」にひた走って、月山スキー場到着(11:45)。おお、眼前に展開するは、雪屏風の如し、だ。



下に向かって左方の疎林など、シュプールのないところを選んで、快感ザラメスキーだ。あまりにも美味な「前菜」に未練は残るが、疲れを残さないようにと、腹八分目、リフト7本分で切り上げた(15:45頃)。自分にもっとガッツがあれば、月山往復(登り約2時間)もしたのだが、次回の楽しみにとっておこう。



帰り道、麓の志津の民宿で温泉に漬かるが、ここに車を置けば、シャトルバスでスキー場に上がり、帰路は、スキー場より更に5kmのツアーが楽しめる。信州のスキー場の喧騒もなく、GWにのんびり山スキー&ゲレンデスキーを楽しむには出色のエリアではなかろうか。

湯殿山ICより山形道の続きを酒田みなとIC終点へ、R7を北上、象潟・道の駅で夕食、仁賀保より県道を抜川登山口Pへ(標高1200m、21:00頃)。ヒューヒューと風が車を揺らし、少し心配になった。



4月30日(水)鳥海山(袈川口)

眼前に真っ白な鳥海の山体がどっしりとそびえ、山頂ははるかかなたに思え、神々しくさえある。6:00出発。ここはひとつ腰をすえてじっくり登ろうと、緩く大きなジグをきって省エネモードでシール登高することにした。対して、元気印の高江さんは、クライミングサポートフル活用の直登モードだ。

山と高原地図のみで2.5万図を持参しなかったこともあって、地形がつかめず、一体、この巨体のどこを登るべきかと思案していたが、背の低いルート旗が頂上直下まで連なっていて何の心配もなかった。

7割がた登ったところで雲が湧いて来た。しかし、終日、視界を遮ることはなく、雲海となって、雰囲気盛り上げてくれた。時々強風で体がよろめいたりもしたが、順調に登り上げ、ようやく山頂(外輪山・七高山、標高2200m、10:15~11:15)に到着。おお、外輪山岩壁が雪氷をまとって迫力の眺めだ。東方には雲海、西方ははるかかなたにかすむは、日本海の水平線だろうか。あまりにもいい天気だし、風も弱まっているので、コーヒーでも沸かしながらゆっくりしよう。最高点の新山は、次回、鉾立コースからの楽しみに取っておこう。

さあ、待望の滑降だ。シュプールのない右方斜面に出て、互いに上から下から写真を取り合いながら、ザラメ雪にシュプールを描いて、快感パラレルターンだ。この大斜面、ちまちま滑っては勿体ないと、どんどん右方へ斜滑降してみるが、このままでは山体を一周しかねないので、適当なところで切上げて左方へ斜滑降。あれれ、登山口はどの辺だったっけ。不安になり、さらに左方へ延々と斜滑降すると、ルート旗に出くわしー安心。さらに大斜面を心ゆくまで味わって、駐車場に帰着(12:30頃)。



麓の猿倉温泉の鳥海荘にて入浴し、R108~湯沢IC~秋田道~東北道~黒石IC~R394とひた走り、睡蓮沼の路肩のトイレ付駐車スペース?にて車中泊(標高1000m、20:30頃)。温湯のドライブインでの夕食時にTAKさんが仕入れたピターな地ビールで一杯やる。今晚も結構、強風だ。



5月1日(木)南八甲田・櫛ヶ峰

天気：晴れ

夕べは、とうとう1台もやってこなかった。5時起床、準備中に、山スキーヤーの車が1台到着するが、北八甲田方面のようだ。7:00頃出発、南西方向に適当にシール歩行し、右手の緩い尾根筋にのると、背後に北八甲田の雄大な山並みが広がった。



大岳

しばらく樹間を縫って進み、急になったので、左から回り込み、再び樹間を坦々と登ってゆくと、開けた緩斜面に出、まもなくニセ駒ヶ峰と呼ばれる稜線の隆起に着いた。

意外と遠くに駒ヶ峰が、さらにその背後に櫛ヶ峰が望まれ、八甲田のスケールの大きさを実感する。

緩く長い下り、やや急で短い登りで駒ヶ峰。ガイドをよく読むと、右方の湿原から巻けたようである。シールを外して、強風に逆らって、緩く長い下り、再びシールで大斜面を喘登し、櫛ヶ峰山頂(標高1500m、10:30頃)。

今日も天気いいので、ゆっくり休もう。TAKさんのザックから、ビール出現!忘れていた歌を思い出した、とはまさにこのことだ。おじさんが一人、ツボ足で登ってきた。ビールのせい、櫛ヶ峰大斜面は、短かったけれど、快感スキーであった。ヒールフリーにして、緩斜面を駒ヶ峰へ戻り、駒ヶ峰斜面を楽しみ、緩斜面をニセ駒ヶ峰に戻った。さきほどのおじさんも追いついて来た。

本日は、この山域は3人だけだったようだ。目印を頼りに尾根筋を。途中から、右方の沢筋沿いを滑って、睡蓮沼へ戻る。が、なんとレッカー車が臨場中、冷汗をかく一幕であった。谷地温泉は休業していたので、猿倉温泉へ。山側が開けた露天風呂を2人占めだ。ゆっくり休んで、TAKさんを銅像経由で青森駅に送り届ける。

R7~弘前手前~県道と走って、岳温泉へ。駐車場は傾斜地のうえ、周囲の宿の目もあるので、岩木山スカイラインを少し上がり、山麓ハウス前広場に移動して車中泊。



櫛ヶ峰



櫛ヶ峰大斜面



睡蓮沼へ滑り込む

5月2日(金)岩木山(長平コース)

天気：晴れ

早めに岳温泉駐車場へ移動するが、スキーヤーはおろか観光客もおらず閑散としていた。やがて、鳥海山を滑ってきたという若者がやってくるが、あまりの雪の少なさに戦意喪失して、登山に切替えていた。

始発(8:25)のバスで8合目まで上がる。結局、スキーヤーは他に2人だけだった。昔、同時期に家内と上がったが、降雪悪天候のため、山頂に行かず、岳温泉コースを山麓ハウスへ滑走下山したのだった。待ちかまえていたパトロール隊員より、注意書きと登山計画書用紙を受け取る。

さらにリフトに乗り、雪の無い登山道を歩きづらい兼用靴で大汗かいて山頂へ(標高1600m、10:10~10:45)。周囲をぐるっと一回りして、弥生・百沢(共に今回滑走中止勧告中)・長平の各コースを偵察する。

長平コース分岐に戻り、板を担いで、目印を頼りに、登山道を台地状までトラバースし、ようやく待望の滑走だ。長い竹ざおが適当な間隔で設置してあるので、迷う心配はない。さらに、直進してはまずい所には、スキー場みたいにXマークがあるので、ちょっぴり興奮めな気もする。西法寺森のピークにて昼食大休止とした(11:45~)。忘れていた歌ならぬビールでひとりいい気分になる。

開放的な大鳴沢に滑り込みたい気持ちを押えて、ルート旗に従い左折して樹林帯へ入り、目印を見失わないよう滑ってゆくと、鱈ヶ沢スキー場 Gondola 終点に出た(12:30)。



¥1000で乗れるとのことだが、まだなんとか雪がつながっているのですが、スキー場を滑るが、やがてとうとう雪がなくなり、たっぷり20分歩かされてスキー場ベースへ(標高400m)。ズック靴を持参するのだった。

1時間以上のんびり休んで、1日1本のバス(14:40)で、岩木山を半周して岳温泉に戻る。

バス停前で温泉に漬かり、往路を、八甲田に戻り、ロープウェイ乗り場にて車中泊(20:30頃)。



5月3日(土)北八甲田・八甲田温泉コース

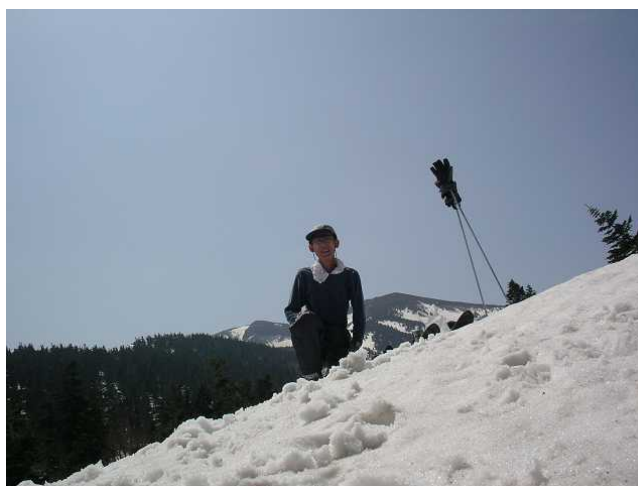
天気：晴れ

スキーヤーや観光客の車が徐々に集まってきた。乗り場に乗客がかなりたまってきたので、始発(9:00)が30分繰り上がって出発。昔、家内と来たときは、最高峰の大岳まで上がって、最も長くて人気のある箒場岱(ほうきばたい)コースを滑った。今回は、疲れがたまっているのので、登高ゼロで最も長いコースを選んだ。



ロープウェイ終点(標高1300m)より、竹ざおに従って、たもやち岳右手を巻き、ゆるい滑り登りで赤倉岳とのコルへ。赤倉岳を右に見て、トラバース気味に林間を滑ってゆくと、右手上方に快適そうな赤倉岳大斜面が望まれる。鳴沢台地とのコルへ滑り込み、右方へしばらく滑ってから、暑いので木陰に入って、昨日同様、ビールを冷やしてのんびり昼食大休止とした。

標識を頼りに新緑まばゆいぶな林を縫ってのんびり滑って、八甲田温泉分岐のバス停へ(標高600m、12:00頃)。シャトルバス(12:15頃)は始発の箒場岱からのツアー客がまだなので空いていたが、次の銅像前では満員になった。



例年にない雪解けの早さに、ロープウェイ下のゲレンデコースも下部は雪がなく、これで、すべての予定終了!八甲田温泉にとってかえして、露天風呂でのんびりし、帰路についた。

ガソリン値上げもあって、経済速度90km/hで走行。八甲田温泉(13:40)~R394~R7~能代南IC~秋田道~岩城IC~仁賀保付近(19:30)~R7~酒田みなとIC~山形道~鶴岡IC(21:30)~R7~中条IC~北陸道~磐越道分岐付近SA仮眠(24:00~6:00)~TAKさん宅(荷物を届ける、17:00頃)~帰宅(18:00頃)

・交通費データ

走行距離：2900km、高速道路代¥26650、ガソリン代：約4万円

ホームページへ <http://allmt.hp.infoseek.co.jp/>